

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業（領域開拓プログラム）  
研究テーマ公募型研究テーマ 研究概要

課題

科学技術と「人間」との関係性に関する研究

研究テーマ名

創造する天然知能としての「わたし」の理論と実践

責任機関

学校法人早稲田大学

研究実施期間

令和2年10月から令和5年3月

研究プロジェクトチームの体制

研究代表者等の別	氏名	所属機関・部局・職名
（受託者（委託先）・責任機関）機関名		
研究代表者	郡司 幸夫	早稲田大学・基幹理工学部・教授
グループリーダー	西井 涼子	東京外国語大学・アジアアフリカ言語文化研究所・教授
グループリーダー	箭内 匡	東京大学・教養学部・教授
分担者	Andrew Adamatzky	Univ. West England (UK) Unconv. Comput. Center Prof.
分担者	Tomas Veloz	Instituto de Filosofia y Ciencias de la Complejidad (Chile)・Researcher
分担者	Basileios Vasios	Universite libre de Bruxelles (Belgium)・Department of Physics・Senior Researcher
（受託者（委託先）・協力機関）機関名		
グループリーダー	中村 恭子	新潟大学・創生学部・特任助教
分担者	Angela Castillo Guzmán	Instituto de Filosofia y Ciencias de la Complejidad (Chile)・Researcher
分担者	黒木 萬代	大阪大学大学院・人間科学研究科・博士課程大学院生

配分（予定）額

（単位：円）

令和2年度	令和3年度	令和4年度
2,925,000円	5,850,000円	5,850,000円

※令和3年度・令和4年度については予定額

## 研究目的の概要

人文学は異質性への感度を高め、創造性を担う「人間」を現代に再構築可能な学問だ。しかし科学に近い人文学ほど等質的「人工知能」を「わたし」のモデルとし、「わたし」の理解を一人称（「わたし」）と三人称（脳）の論理的な関係づけに求めている。本研究の目的は、一人称と三人称の関係を、二元論でも一元論でもない中立一元論的關係性に求め、未だ未整備な中立一元論を、具体的な「一人称～三人称」として実装し、それを内部に取り込んだ「天然知能」として「わたし」を再定義することにある。それは哲学・科学で量子論を超えた異質性の学を拓き、芸術で創造のメタファーを再構築し、人類学で情動を中立一元論的に構想し、外部に対峙する創造的人間を開発することを目的とする。

## 研究計画の概要

### 令和2年度

- ① 理論：人工知能的対話と天然知能的対話の在り方に関して、研究会（場合によってはオンライン）を実施し、メンバー間で相互確認し、コンセンサスを得る。
- ② 制作・調査：「一人称～三人称」が、当事者性を失うことで情動的な白紙を作り出し、外部を召喚する仕掛けとなる事例を、チリの農村やチリのアニメーターに見出し、それらを理解するための基礎を与え、アニメーターをモチーフとした連作を開始する。
- ③ モデル：人類学の根幹に据えるイメージが、主観～客観であることで主観性を排除した脱情動的媒体となることを議論し、イメージ概念普遍化の準備を進める。

### 令和3年度

- ① 理論・調査：「一人称～三人称」なる装置を、相互に議論、確認しながら、郡司、中村、西井、箭内の各々のグループで展開し、チリでのフィールドワークを4人全員で実施する。ここではチリ固有のアニメーターやオートポイエシス理論の誕生した土壌をサンチャゴ周辺・チリ大学に取材し、それらの人類学的意味を調査するほか、一人称・三人称の循環を意味するオートポイエシスの内部に「一人称～三人称」を組み込み、天然知能化する方法を模索する。特に「一人称～三人称」を脳（神経細胞の群れ）や意識科学のモデルとしてポストディクション、準備電位、無意識の分脈でモデル化し、意識科学、脳科学を異質性に基礎付けられた科学へと拡張する試みを展開する（郡司）。
- ② 制作：「一人称～三人称」を、個人史（一人称）を失うことで情報（三人称）としての空白さえ生み出し、逆に普遍性を獲得し神聖視される人格のアニメーターに見出し、その哲学的意味を論じると共に、それをメタファー化した「書き割り少女」の日本画作品連作および混合媒体による造形作品を完成させる。
- ③ モデル：当事者性を失うことで、逆に普遍的公共性を獲得する個人の事例をフィールド調査し、当事者性・情報の喪失こそ「一人称～三人称」であり、それが共同体の中で公共性を獲得過程の詳細を理論化する。「一人称～三人称」が、脱イメージ化という時間過程を体現したイメージとしてどのように認められるか分析する。

### 令和4年度

- ① 理論・モデル：外部から情報を取り込まないと意味のない、脳における「一人称～三人称」のモデルを完成させる。これは心や意識のような振る舞いを説明するモデルとは異なり、外部から情報を召喚するための擬似・計算機である。
- ② 制作：「書き割り少女」の日本画作品連作についての展覧会を開催する
- ③ 総合：「一人称～三人称」を通して構築される、創造性を担う「わたし」に関するマニフェストを連名の論文として刊行する他、書籍を刊行する。